

# 防火実習



令和6年1月19日

1月19日に防火実習を行いました。本訓練では佐教内にある防火実習場で円形タンクに燃料を入れ火をつけて実際に消火作業を行います。

火柱が何メートルも上がり、勢い良く燃える炎に突入するのは勇気がいりますが、教官から受けた指導事項を一つ一つ確実に実施すれば、何の危険もありません。主要な防火器材の取扱いができ、油火災の消火作業を習得することと同時に、火に対する恐怖心を払拭することも本訓練の目的の一つです。





訓練で使用する円タンクです。

午前中は防火衣の装着法、午後から行う実際に火をつけての消火作業の手順の確認を実施しました。火がついていないからといってこの訓練をおろそかにすると、実際の場合に危険に陥ることもあるので真剣にやる必要があります。





チャージ!

ハンドル持って万能ノズルを胸元まで持ち上げる。



勢いよく振り下げるとハンドルが開放され水が噴射する。



ハンドルの位置と固定を確認



防護姿勢（水霧で壁のように火から自身を守る）をとり、突入準備完了。

火元から少し離れた所で態勢を整え、班長の「チャージ」の号令でタイミングを合わせ放水を開始し、火元に向かって進みます。

ホースの先についているノズルは万能ノズル

とあって、ハンドルの開放位置によって直射と高速水霧に切り替えることができ、今回は使用しませんが、アプリケーションという大きく広がる水霧を噴射できる器材を取り付けることも可能です。



右!左!右!左!

円タンクまで前進したらノズルを左右に振り、手前の火を消す。

グースネック

手前の火が消えたらグースネックという形に持ち替え、息を合わせて火を前方に追いやる。

正面に構え

ノズルを正面に構え、水霧で油面の全体を覆うようにし、追いやった火を消す。

消火後、残り火がないか隈なく確認する。

基本姿勢のまま開始位置まで戻る。ホース員は、ノズル員に手を添えて補助をしながら下がる。

下がれ

異状なし!

開始位置まで戻ったら、シールドを上げマスクを外し、異状の有無を報告する。

上記のような流れで一連の消火作業を行います。ノズル員の操法が重要なのはもちろんですが、ホース員もホースのさばき方一つでノズルの操作のしやすさがかなり変わるため、重要な役割を担っています。ノズル員の後ろのホース員が次のノズル員というように交代しながら、



順番に訓練を実施します。

午後はいよいよ点火して、実際に火を消す訓練です。教官による展示に続き学生達も消火作業を行いました。



かなり高くまで炎が上がっていますが、午前中に訓練したとおり、落ち着いて確実に各動作を行えば、ちゃんと消火できるので、何も怖くありません。

















訓練後は片付け  
です。命を守って  
くれた装備を丁寧  
に手入れし、必要  
時すぐ使えるよう  
決まったたたみ方  
で片付けます。



教官から教わったことを忠実に実施し、どの  
学生も危なげなく安全に消火作業を実施できま  
した。あんなに大きな火も、その特性を理解し  
正しい手順で行えば、自分達でも消火できるん  
だ、と自信につながったのではないのでしょうか。

**お疲れさまでした！**

